

囲碁の世界は無限大!

安浦囲碁大会のお世話を15年、安浦囲碁スクールの指導を13年続ける内海の岡谷生三さん(73歳:6段)が囲碁と出会ったのは社会人1年目の18歳。同僚が打つを見て、その面白さの虜になりました。

5年間ほぼ毎日呉の碁会所に通って腕を磨き、3年で二段に昇格。新聞社主催の大会にも参加し、34歳で念願の呉地方アマチュア本因坊碁選手権大会に初優勝!(今まで一番嬉しかった思い出)

その後、面白いように勝てるようになり、これまで広島県代表5回、呉アマ本因坊8回、読売囲碁大会5回の優勝を飾りました。団体戦でも7年連続県代表になり、全国3位になったことも!

県内では強すぎて対局相手が見つからず囲碁ができないという苦労話も達人ならではの。



岡谷生三さん

そんな岡谷さんが2年前に体調を崩し、呉アマ本因坊戦で初戦敗退。今までのように相手の手が読めず、「俺ももう年かな?」と一時は引退を決意しましたが、治療に専念した結果、今年の同大会で見事復活優勝しました。

最後に一言「女房には苦労をかけたが本当に感謝しています。私の囲碁人生に悔いはありません。」いやいや、当分若い人に負ける気配はなさそうです。これからも体調に気をつけて頑張ってください。



まちしるべ



向野原地区



日之浦地区



跡条地区



沖の手地区



岡谷地区



奥条地区

まち協の看板部会が始めた「まちしるべ」事業。昔ながらの地名(字名)とその名前の由来を後世に伝えていきたいとの思いから実現。平成24年度は安登地区の奥条、跡条、向野原、沖の手、岡谷、日之浦に設置しました。ご協力ありがとうございました。平成25年度は野路地区で実施する予定です。地元の方皆さん、ご協力よろしくお願い致します。

三津口湾のイカ漁



専用の仕掛けカゴ



コウイカの水揚げ



宮野健吾さん



安浦でただ1軒

伝統イカ漁

宮野健吾さん(71才)がイカ漁を始めたのは、兄から引き継いだ6年前。約60年前のイカ・タコ漁専用船を操り、三津口湾周辺で漁をしています。

狙うのは「コウイカ」。4~6月が漁期で、鉄製(昔は竹で編んでいた)のカゴに「ツゲ」の木を入れて海に沈めると、そこにイカが産卵しに入る仕掛けだそうです。

「ツゲ」の木は軽くて丈夫。昔から使われている漁法で、今も伝統を守っています。

水揚げしたカゴには、多い時で10杯以上のイカの他、アナゴ・カニ・オコゼなども入るとか。

捕ったものは全て市場に卸していますが、特にイカは新鮮で評判が良いそうです。

「手間暇がかかり、ほとんど儲けはないですが、楽しくて今では生きがい。できる限り続けていきたいですね」と夏からはタコ漁もはじめる宮野さん。

海の男はまだ元気です。



コウイカ(甲イカ)

おでかけ情報

6月

蛍・月・笛の会	6月1日(土) 18:30~
盛川酒造(株) 会費8,000円 定員50名	
きらめき音楽館	6月8日(土) 11:00~
	安浦公民館きらめきホール
柏島大祭	6月8日(土)・9日(日)
	三津口棧橋から定期船有り(有料)
いなし安浦青空市	6月15日(土) 8:00~
	いなしふれあい市場
安浦のホテル	6月初旬~
	野呂川沿い(市原~原畑), 中畑他

7月

きらめき音楽館	7月7日(日) 14:00~
(全席指定:大人1,000円, 中学生以下500円)	安浦公民館きらめきホール
いなし安浦青空市	7月20日(土) 8:00~
	いなしふれあい市場
落合恵子(作家)講演会	7月28日(日) 14:00~
	安浦公民館きらめきホール

8月

きらめき音楽館	8月10日(土) 11:00~
	安浦公民館きらめきホール
安浦夏まつり	8月14日(水) 17:30~
	グリーンピアせとうち

初めての蔵まつり 盛川酒造



美味しいお酒をいただいてご機嫌!

4/21(日)、安浦町唯一の造り酒屋『盛川酒造』にて、蔵まつりが開催されました。はじめてのイベントだそうです。地酒「白鴻」の試飲や限定酒の販売、地元のお店による日本酒と相性バツグンのおつまみ販売もあり、午前中から大賑わいでした。受付で注がれた最初一杯「蔵きち」は、甘い香りとともにとてもまろやかで、まさに春の青空にピッタリ。老若男女問わず、みんな笑顔で味わっている様子が印象的でした。

また、杜氏盛川元晴さんによる蔵見学ツアーもありました。なかなか見ることのできない巨大日本酒タンクに囲まれ、お酒の造り方や、造る上でのこだわりなど、貴重なお話を聞くことができました。



もう一杯いかが?



杜氏の解説付き蔵見学ツアー

早春の山を彩った白い花は?

今は時期が過ぎましたが、早春の山肌を山桜に先駆け白い花が彩ります。ご存じですか?「コブシ」と答えられる方も多いと思いますが、写真をよくご覧ください。

「コブシ」は花の下に葉が一枚ついていますが、この辺で見かける花の殆どは、葉がついていません。実は広島県の山々を白く彩っている「コブシ」のような花の殆どが、同じモクレン科の「タムシバ」なんです。

下垣内から中畑にかけて県道34号(矢野安浦線)を黒瀬に向かう時、白く彩られた山肌が目に映ります。また、赤向坂にも見所があります。

「タムシバ」の名の由来は、枝や葉を噛むと甘みがするので「噛む柴(カムシバ)」と呼ばれ、それが訛って「タムシバ」になったと言われています。花に芳香があるので「ニオイコブシ」とも呼ばれます。

これから新緑、秋には紅葉と、安浦の山々は四季を楽しませてくれます。



タムシバ



コブシの花



タムシバの花

安登公園グランドオープン!



安登公園が、幼児用遊具や児童遊具のゾーンを加えて3月末に

全面オープンしました。既に多目的スポーツ広場は、グランドゴルフや少年野球などに使われていましたが、新ゾーンの完成で、幼児から年配の方まで幅広く利用できるようになりました。

地域の人だけでなく、多くの人たちに愛される公園になれば良いですね。



トワイライトエクスプレスがやってきた!



JRのキャンペーンで、普段は大阪札幌間を結ぶ人気の寝台特急「トワイライトエクスプレス」が呉線を走ります。安浦

駅・安登駅には停まりませんが、岡山から広島へ向けての道中、14時20分頃に安浦を通過するそうです。地元で見えるチャンスは、5月21日と6月4日のあと2回。興味のある方、時間のとれる方はトワイライトエクスプレスを探してみたいですか?



ただし、いい写真を撮りたいからと、線路敷や他人の敷地に入るような行為はくれぐれもしないようお願いします。



伝説と昔話 第5話 安浦の民話シリーズ



内海地区

行者山の 大てんぐ・小てんぐ



内海の南側を流れる中切川の向こうに「行者山」という大きな山があります。この山の中腹あたりに権現様という神様がまつりされ、そこには「大てんぐ」がいてお参りに来る人の願いを聞いて権現様にお取りつぎをする役目をしていました。

「大てんぐ」はいつも人と触れ合うことが多く、人の日頃の行いをよく知っていて、悪い心を持つものが、知らぬ顔をして権現様に近づくと反省させるために、いたずらをしていました。

また、「大てんぐ」は沢山の子分の「小てんぐ」がいて、親を大切にしない者や、欲張り、嘘つきがいるとすぐさま「小てんぐ」に言いつけて、パチをあたらせたり、時には火をつけて回らせたりしました。

しかし、世のため、人のために良い行いをした人には、「大てんぐ」が権現様に病いやけがの災いから守ってくれるというので、人々

安浦町は古い歴史があり、数々の民話や伝説が生まれてきました。子から孫へと後世に残る素晴らしい贈り物。古くから語り継がれてきたお話をシリーズで紹介します。

はよい行いをするよう心がけ、権現様にお祈りしていました。

ある時、この山で心を磨き体を鍛えるため、岩の中で暮らす行者がいて懸命に修行していましたが、「小てんぐ」が出てきては邪魔をするので、とうとう権現様に止めてほしいとお願いしました。

権現様も日頃から「小てんぐ」たちのいたずらがすぎて腹を立てていましたから、腹を立てていましたから、この行者の願いを聞いて、「てんぐ」たちを山の上に追い上げて動けないようにしてしまいました。

「てんぐ」も悪いと思ったのか、そのままじっとしていましたが、長い間の雨や風で、とうとう岩になってしまい、今でも山の頂上あたりに「大てんぐ岩」・「小てんぐ岩」となっています。

また、この「小てんぐ」たちが時おり三津口湾に遊びに来て、穏やかな海の景色を眺めたものか、相島と馬島に「てんぐの止まり木」といわれる松の木があって、どちらの木も一番下の枝がまっすぐ北向きに伸びていたといわれています。



ええとご祭りに登場するこの民謡が元になっている「小天狗がん坊」

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし 現在の町並みから懐かしい風景をご覧ください。

昔の写真を募集しています!

写真は広報誌やホームページで活用します。提供いただいた写真は後日返却します。

安浦町まちづくり協議会
0823-84-2261

内海 イズミ前(旧国道185号)

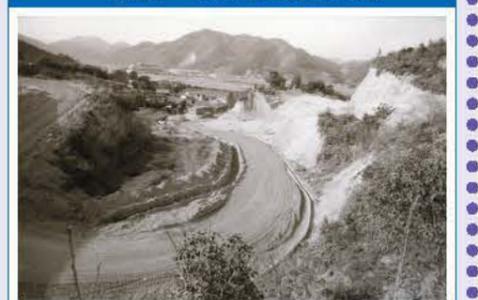


右下に帝国製鉄引込線レールが見える(昭和45年)



現在 スーパーなどが建ち国道から県道になっている

水尻(県道川尻安浦線)



水尻から日之浦への県道工事中(昭和45年)



現在 県道も改良され、企業や団地が建ち並ぶ。